

平成25年12月 東京地区百貨店売上高概況

平成26年1月17日

I. 概況

1. 売上高総額	1,789億円余
2. 前年同月比	3.6% (店舗数調整後/5か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭4.1%(90.5%) : 非店頭-0.7%(9.5%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成25年11月対比±0店)
5. 総店舗面積	875,636㎡ (前年同月比:-4.9%)
6. 総従業員数	19,027人 (前年同月比:1.3%)
7. 3か月移動平均値	5-7月 4.3%、6-8月 4.4%、7-9月 2.3%、 8-10月 3.3%、9-11月 2.9%、10-12月 3.0%

[参考] 平成24年12月の売上高増減率は-1.1% (店舗数調整後)

【12月売上の特徴】

- (1) 東京地区は、12月が+3.6%と高い水準で推移した結果、最終的に平成25年年間売上高も既存店ベースで+3.5%、全店ベースで+3.0%と前年実績を大きく上回る事となった。7月を除く各月でプラスするなど年間を通じて好調に推移した。
- (2) 主力の衣料品(+4.4%)は、気温低下を背景として冬物重衣料を中心に高い伸びを示した。具体的には、コート、スーツ、ジャケット、スカート等に加えて、セーター、ストール、マフラー、手袋等の防寒アイテムも良く動いた。
- (3) 高額品は、美術・宝飾・貴金属(+20.8%)が3か月連続で2割増を記録したほか、ラグジュアリーブランド(身のまわり品:+7.2%)も同様に活況であった。押し上げ要素の一つとして、訪日外国人の大幅増も寄与している。
- (4) 消費税率引上げ前の駆け込み需要から、家具(+18.8%)が都内のほぼ全店で2桁増を記録した。新築住宅だけでなくリフォーム需要も取り込んでいる。
- (5) 東京地区の1月中間段階の商況は、福袋やセール品だけでなくプロパー品(正価商材)の動きも良く、概ね3%増で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
①増加した:10店、②変化なし:4店、③減少した:4店
- (3) 12月歳時記(クリスマス、歳暮、天皇誕生日、大晦日)の売上(同上/有効回答数14店舗)
①増加した:4店、②変化なし:10店、③減少した:0店

東京地区百貨店 売上高速報 2013年12月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	178,920,664	100.0	3.6 (3.0)
紳士服・洋品	14,266,053	8.0	3.8 (3.5)
婦人服・洋品	28,913,021	16.2	4.9 (4.0)
子供服・洋品	2,507,980	1.4	-0.5 (-0.7)
その他衣料品	3,260,551	1.8	6.8 (6.4)
衣 料 品	48,947,605	27.4	4.4 (3.7)
身のまわり品	24,866,737	13.9	7.2 (6.7)
化粧品	8,702,685	4.9	6.7 (6.5)
美術・宝飾・貴金属	11,328,549	6.3	20.8 (20.6)
その他雑貨	8,211,212	4.6	1.7 (1.6)
雑 貨	28,242,446	15.8	10.3 (10.1)
家具	2,299,762	1.3	18.8 (14.7)
家電	719,011	0.4	-38.3
その他家庭用品	6,032,531	3.4	12.4 (12.1)
家 庭 用 品	9,051,304	5.1	6.8 (5.8)
生 鮮 食 品	9,578,939	5.4	0.3 (-0.3)
菓 子	16,178,824	9.0	0.8 (0.0)
惣 菜	12,145,556	6.8	-1.1 (-1.7)
その他食料品	20,037,627	11.2	-3.8 (-4.0)
食 料 品	57,940,946	32.4	-1.3 (-1.8)
食 堂 喫 茶	3,586,387	2.0	0.3 (-0.3)
サ ー ビ ス	2,686,678	1.5	6.0
そ の 他	3,598,561	2.0	-4.8 (-8.2)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

※

商品券	6,381,603 千円	-2.3 (-2.8)
従業員数	19,027 人	1.3
店舗面積	875,636 m ²	-4.9

営業日数	31.0 日	前年	31.0 日
------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、雑貨が10か月連続、身のまわり品が5か月連続、衣料品と家庭用品が2か月連続のプラス。食料品が3か月連続のマイナスとなった。また、化粧品が17か月連続、美術・宝飾・貴金属が12か月連続のプラス、紳士服・洋品、生鮮食品が5か月連続、婦人服・洋品、その他衣料品、その他雑貨、家具が2か月連続、その他家庭用品が2か月ぶり、菓子が9か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	3.6	—	5か月連続プラス
紳士服・洋品	3.8	0.3	5か月連続プラス
婦人服・洋品	4.9	0.8	2か月連続プラス
子供服・洋品	-0.5	0.0	3か月連続マイナス
その他衣料品	6.8	0.1	2か月連続プラス
衣料品	4.4	1.2	2か月連続プラス
身のまわり品	7.2	1.0	5か月連続プラス
化粧品	6.7	0.3	17か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	20.8	1.1	12か月連続プラス*
その他雑貨	1.7	0.1	2か月連続プラス*
雑貨	10.3	1.5	10か月連続プラス
家具	18.8	0.2	2か月連続プラス
家電	-38.3	-0.3	2か月ぶりマイナス
その他家庭用品	12.4	0.4	2か月ぶりプラス
家庭用品	6.8	0.3	2か月連続プラス
生鮮食品	0.3	0.0	5か月連続プラス*
菓子	0.8	0.1	9か月ぶりプラス*
惣菜	-1.1	-0.1	4か月連続マイナス*
その他食料品	-3.8	-0.5	3か月連続マイナス*
食料品	-1.3	-0.4	3か月連続マイナス
食堂喫茶	0.3	0.0	2か月連続プラス
サービス	6.0	0.1	4か月ぶりプラス
その他	-4.8	-0.1	3か月ぶりマイナス
商品券	-2.3	-0.1	32か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

東京地区百貨店 売上高速報 2013年01月～2013年12月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	1,565,208,496	100.0	3.5 (3.0)
紳士服・洋品	131,038,132	8.4	5.0 (4.8)
婦人服・洋品	317,201,120	20.3	3.8 (3.2)
子供服・洋品	30,587,124	2.0	-1.5 (-1.6)
その他衣料品	31,156,436	2.0	3.7 (3.5)
衣 料 品	509,982,812	32.6	3.8 (3.3)
身のまわり品	216,413,095	13.8	7.3 (6.4)
化粧品	84,015,410	5.4	4.3 (4.1)
美術・宝飾・貴金属	96,934,854	6.2	21.8 (21.7)
その他雑貨	73,975,798	4.7	-1.6 (-1.8)
雑 貨	254,926,062	16.3	8.3 (8.2)
家具	23,807,484	1.5	3.4 (1.7)
家電	11,052,791	0.7	3.1
その他家庭用品	53,733,423	3.4	1.2 (0.8)
家 庭 用 品	88,593,698	5.7	2.0 (1.3)
生 鮮 食 品	65,104,356	4.2	0.1 (-0.3)
菓 子	110,093,423	7.0	-0.5 (-1.0)
惣 菜	85,529,121	5.5	-0.9 (-1.3)
その他食料品	130,324,620	8.3	-1.2 (-1.6)
食 料 品	391,051,520	25.0	-0.7 (-1.1)
食 堂 喫 茶	39,021,637	2.5	2.9 (1.8)
サ ー ビ ス	27,722,930	1.8	-2.5
そ の 他	37,496,742	2.4	1.7 (-1.4)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

※

商品券	41,597,808 千円	-11.9 (-12.2)
従業員数	228,820 人	0.4
店舗面積	10,690,369 m ²	-2.6

営業日数	30.3 日	前年	30.3 日
------	--------	----	--------

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>